

2020年6月期 第2四半期 決算説明会

■ 第2四半期決算の説明

(表紙)

皆様、ご多忙の中、株式会社ビーネックスグループ 2020年6月期第2四半期決算説明会にご参集いただきましてありがとうございます。

株式会社ビーネックスグループ 代表取締役社長 西田穰でございます。本日はよろしくお願いたします。

お手元の資料に沿って、当社の決算につきましてご説明をさせていただきます。

(2 ページ) グループ理念、中期経営計画

まず、グループ理念、中期経営計画ということに記載させていただいております。

既にご存知の通り、当社ビーネックスグループは、この2020年1月1日付をもちまして、旧社名株式会社トラスト・テックより、株式会社ビーネックスグループへと名前を変更し、また同時に持株会社形態に変更いたしました。その中で、新たにグループ理念を策定し、昨年より制定しております中期経営計画の達成に向け、全グループ全社員邁進しているところでございます。

グループ理念等につきましては詳細を省かせていただきますが、記載させていただいている通り、「BE」、「NEXT」という言葉を使いまして、次に挑む機会を作り続けるということをミッションに、心新たに進めていく所存でございます。

(3 ページ) 目次 I 連結業績

それでは、決算についてご説明させていただきます。

まず、連結業績でございます。

(4 ページ) ハイライト

ハイライトといたしまして、上期第2四半期までの業績は、増収減益も、こちらの方は当初の想定通りという形で終了いたしました。

上期計画に対しましては、EBITDAでは5.0%の超過で終わることができました。

ふたつ目に技術系領域の技術成長が継続及び、IT分野の拡大をすることができました。

技術系領域においては売上高で8.4%の増、またIT領域の採用進捗とIT領域のM&A、こちらは3Qの業績寄与になりますが、こちらの方が進展いたしました。

上期配当金につきましては、期初予定通り15円、期末配当金は25円を予定しております。

期末の配当金25円を足しまして、年間配当は40円と、前期と比較いたしまして5円増配を計画しております。

(5 ページ) 連結業績

それでは連結業績の詳細についてご説明させていただきます。

ご覧いただいているように、売上高は前年比プラス1.6%増、計画比では2.2%減の409億円となりました。

当社が重要な指標としておりますEBITDAにおきましては、34億円と、前年比7.4%減ではございますが、こちらは計画比プラス5.0%となりました。

技術系領域の増収が製造、海外の減収を補い、増収を継続することができました。

EBITDAに関しましては、期初の計画で減収を予想しておりましたが、計画を上回りました。前期比では減益となっておりますが、計画は上回っております。

各利益段階におきましては、前年比、ならびに構成比はご覧いただいている通りでございます。売上高が増、それ以外の営業利益、EBITDA、純利益、EPSにつきましては、計画の範囲内ではございますが、前期を下回る結果となっております。

(6 ページ) 計画比 (連結)

参考ではございますが、連結の計画比の予測につきまして図解で示させていただきます。

期初に、2019年8月に決算説明させていただきました内容の繰り返しでございますが、上期の予想はEBITDAで32億円としておりましたが、こちらの方は実績では34億円という形で、プラスで終了することができました。この項目の通りでございます、下期につきましては通期で増収増益に寄与するものと考えております。

(ページ7) 目次 II セグメント業績

それでは続きましてセグメント業績についてご説明させていただきます。以降でそれぞれのセグメントについてご説明させていただきます。

(ページ 8) セグメント別売上高

当社の重要なセグメントとして掲げております技術系領域におきましては、売上高が 216 億円、前期比プラス 8.4%となりました。

また海外での収益、中心となりますのはイギリスの事業ではございますが、現地通貨のポンドベースでは 2.2%成長の 106 ミリオンポンドで着地しております。こちらは日本円換算いたしますと残念ながら減収となるのですが、現地での成長は持続的に進んでいるということをご説明できるかと思えます。

(ページ 9) 社員数 (技術系領域)

当社の事業にとって非常な大きなポイントであります従業員、社員数の傾向についてご説明させていただきます。

こちらは技術系領域だけ抜き出してご説明させていただきますが、社員数は前年比 1,140 名プラスでございます。こちらは 2019 年、昨年 11 月に M&A をした会社の社員数も含んでおります。一方で研修期間の長期化や景況感の影響が非常に大きかったと考えておりますが、稼働率の回復が若干遅れている状況でございます。

稼働数につきましては、6,437 名と、前四半期比 443 名プラスでございます。稼働率につきましては 95.2%と、前クォーターを若干下回りました。

こちらの方は後ほどご説明させていただきますが、回復の傾向が出てきております。こちらにつきましては下期以降の営業状況、また配属状況、稼働状況を注視していきたいと考えております。

(ページ 10) セグメント別 EBITDA

セグメント別の EBITDA でございます。

こちらの方も主力事業でございます技術系について少し詳しく説明させていただきます。

技術系につきましては、前期比 6.6%の減でございますが、計画費プラス 2.6%増の 28 億円となりました。EBITDA 合計の 34 億円につきましては、先程ご説明させていただいた通りでございます。

技術系につきましては、稼働率の改善が下回ったこと、また各社の働き方改革やまた景況感の低迷に伴う残業時間等のいわゆる稼働時間が想定を下回ったことが非常に大きな影響を与えております。また先程もご説明いたしました、研修期間の長期化により、いわゆる非稼働状態が長期化したこと、そういったものが想定よりも増えたこ

とによりコストが増大しました。一方でそれに対応して販管費等につきましては、かなりコントロールし削減したことが、利益の改善に繋がったと見ております。細かい数字、各領域につきましてはご覧いただいている通りでございます。引き続きこの技術系領域の改善を進めていくことが肝要だと考えております。

先程ご説明した海外におきましては、現地通貨ベースならびに日本円に換算したベースでも前期に対してプラスでございますので、こちらの方は着実に進捗していると考えております。

(ページ 11) 技術系領域：稼働日数・時間

技術ページには先程のご説明の、稼働日数であるとか、稼働率の部分のご説明を細かくさせていただいております。

稼働日数は前期に比べまして 1 日減っております。総日数が 111 日でございますので約 1%の減となっております。

いわゆる残業時間、所定時間外の減少は非常に大きく、平均 1 時間強あったものが、0.8 時間程度と大幅に減少している現状がございます。このあたりが当社の主力事業でございます、技術系の稼働率改善や稼働時間の減少に大きく影響していると考えております。

(ページ 12) 目次 III 業績・配当予想

それでは 3 番目に業績ならびに配当の予想についてご説明させていただきます。

(ページ 13) 下期計画（連結）

下期の計画、連結でございます。下期の計画におきましては、通期の予想、期初の予想である売上高 870 億円、それには下期に 461 億円、通期の EBITDA の予想として 75 億円、それには下期 41 億円の達成が必要です。期初の設定通り据え置きたいと考えております。

(達成可能と考える) 要因といたしましては、稼働数そのものが増加傾向でございます。また稼働日数、先程もご説明いたしました当社の収益に大きく影響する稼働時間が昨対比で 1.4 日ほど増加する見込みでございます。

稼働率も改善してまいりました。お陰様で IT 領域を含めて稼働率が改善していくことによる原価改善が見込まれております。

一方懸念要因として、皆様もご存知のように、最近の新型肺炎、COVID-19 の蔓延による操業停止など、世界経済への波及が大きな懸念となっております。本日の報道でも、GDP に対する影響が非常に大きくなるのではないかと、また今後の企業業績において大きな影響を受けるのではないかとということで、当社といたしましても期初の予想、また現在の予想につきまして非常に大きな懸念点があると考えております。引き続き昨年からの問題でございます米中貿易摩擦の解消も少し見えてきたところではございましたが、新型肺炎による影響が一段とその影を大きくしているのではないかと思います。

英国事業におきましては、先程来ご報告の通り安定的な成長をし続けておりますが、またブレグジット最終的な年末の移行の結論がまだ出ていないという状況でございますので、このあたりは為替の影響や景況感の影響を慎重に注視していく必要があると考えております。

そういった意味で通期の連結の計画は据え置きではございますが、非常に懸念要因の多い下期であると考えております。

(ページ 14) 配当予想

続きまして配当の予想でございます。

中間配当といたしましては 15 円の実施を決めております。

また期末の配当は 25 円、合計年間配当 40 円を計画しております。こちらにつきましては継続的に株主還元をすすめていく所存でございます。

以上が株式会社ビーネックスグループ、2020 年 6 月期第 2 四半期の決算につきましての説明でございます。

なお、補足の資料といたしまして、技術系領域の KPI、ビーネックステクノロジー社そのものの KPI 等々を記載させていただいております。

後ほどの質疑応答等でご説明させていただく部分があると思いますが、ご覧いただければと思います。

以上、ご清聴ありがとうございました。(終)